

「家事スタイルに関する調査2010」結果の速報

— “家庭内のシゴト”は節約・時短+楽しんで —

株式会社日本能率協会総合研究所（代表取締役社長：柴 武男 本社：東京都港区）は、20～60代の主婦を対象に、2006年に引き続き「家事スタイルに関する調査2010」を実施いたしました。本調査は、主婦の家事全般に関するニーズをモノ・行動と価値観から検証するため、①調理行動と食品の購買・保存、②キッチン設備と後片づけ・掃除、③バス・洗面所・トイレ・洗濯等水まわりの家事、④その他家庭内のシゴト全般について、網羅的に調査いたしました。その結果、下記のような実態が明らかになりました。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq35.html>)

◆若い主婦は“切り詰め”“時短”の食卓づくりの中、

「きれいなキッチン」「家族の喜び」がモチベーション。

「きれいなキッチンで料理をするのが楽しい」は、20代で59%と最も高く、「家族が喜んでくれるので料理が楽しい」は20代主婦で37%、30代・40代と下がるのが、50代で37%と意識が上がる。

◆20代に身近なシチュー・カレーの「煮込む」調理、

30代・40代は手早く炒め物、60代は煮物の「煮る」調理。

1位は「炒める」97%、次いで「鍋で汁物を作る」「焼く・フライパン料理」「煮る」「煮込む」がいずれも95%以上。20代では「煮込む」が「炒める」共に97%、30代でも「煮込む」は98%。

◆「フライパン」「焼き網」で焼き魚の20代主婦、

流行の最新グッズで蒸し物をするシニア。

「焼く調理」は「魚焼きグリル」が69%、「蒸す調理」は、「電子レンジ」40%、「蒸し器」37%。

◆主婦の嫌いな家事ワースト3は、

「換気扇掃除」「アイロンかけ」「浴室のカビ退治」。

キッチン「換気扇の掃除」80%、「アイロンかけ」63%、浴室の「カビ・黒ずみの掃除」62%。

◆今どきのリビングは“洋室にイスかソファ”が主流、

寝室の“ふとん”は敬遠・“ベッド”に満足感。

リビングは「洋室にソファとテーブル」が39%と最も多く、次いで「洋室にイスとテーブル」36%、「洋室に床座り」25%。主寝室は、「和室にふとん」が44%、「洋室にベッド」が39%と拮抗。

【調査概要】

- ・調査エリア： 首都圏（東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県）、中部圏（岐阜県・静岡県・愛知県・三重県）、近畿圏（京都府・大阪府・兵庫県）
- ・調査対象： 上記3地域に居住する20～60代の主婦（既婚女性）
- ・調査方法： 弊社「J-FAXリサーチ」モニターへの郵送調査
- ・有効回収数： 1,050人（発送数1,500人・有効回収率70.0%）
- ・調査期間： 2009年11月22日（日）～12月3日（木）

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階

TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

◆若い主婦は“切り詰め”“時短”の食卓づくりの中、
「きれいなキッチン」「家族の喜び」がモチベーション。

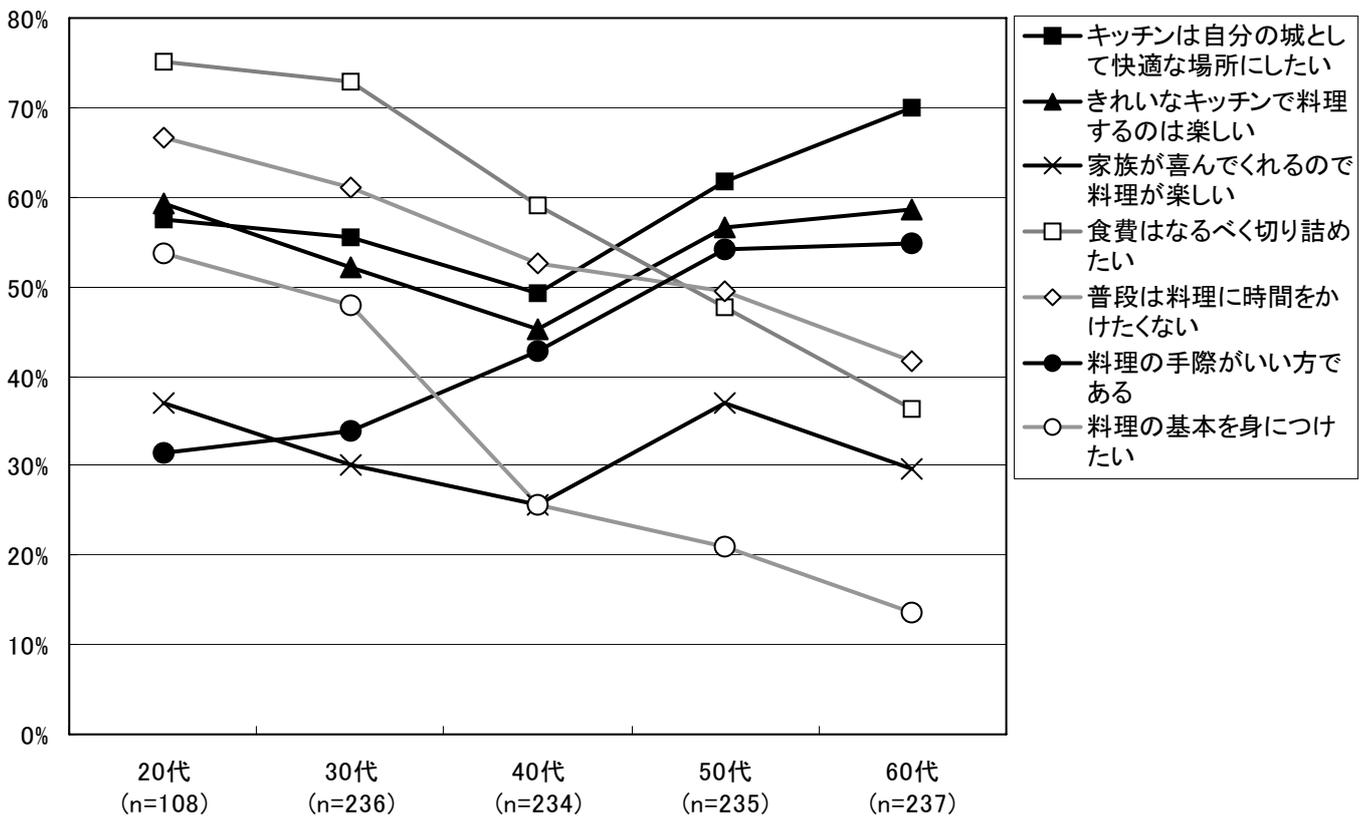
料理やキッチンに対する意識について、あてはまるものを選んでもらいました。

「きれいなキッチンで料理するのが楽しい」は、20代主婦で59%と最も高く、30代・40代とその意識は下がるのが、50代・60代で上昇します。「家族が喜んでくれるので料理が楽しい」は、20代主婦で37%と高く、30代・40代とその意識は下がるのが、50代で37%と意識が上がります。キッチンの「自分の城」意識はシニアほど強くなり、60代主婦では70%に達します。主婦業をスタートさせた20代は「きれいなキッチン」「家族の喜び」をモチベーションに料理を楽しんでいるのが、30代・40代とマンネリ化していき、忙しい中、家事の負担が増えて料理がこなし仕事となっ
ていきます。50代からゆとりを取り戻し、バラバラになりがちな家族がそろったときこそ料理のし甲斐と前向きになる様子です。

一方、「食費はなるべく切り詰めたい」「普段は料理に時間をかけたくない」は20代・30代に多く、金銭面・時間面でのやりくりの大変さも伺えます。

「料理の手際がいい方である」はシニア主婦ほど高く、「料理の基本を身に着きたい」は若い主婦ほど高いという結果になっており、主婦としてのキャリアの浅いうちは向上心もあり、キャリアとともにスキルも上昇するようです。

図表1 料理やキッチンに対する意識 (MA)



◆ 20代に身近なシチュー・カレーの「煮込む」調理、 30代・40代は手早く炒め物、60代は煮物の「煮る」調理。

普段よく行っている調理方法を挙げてもらいました。

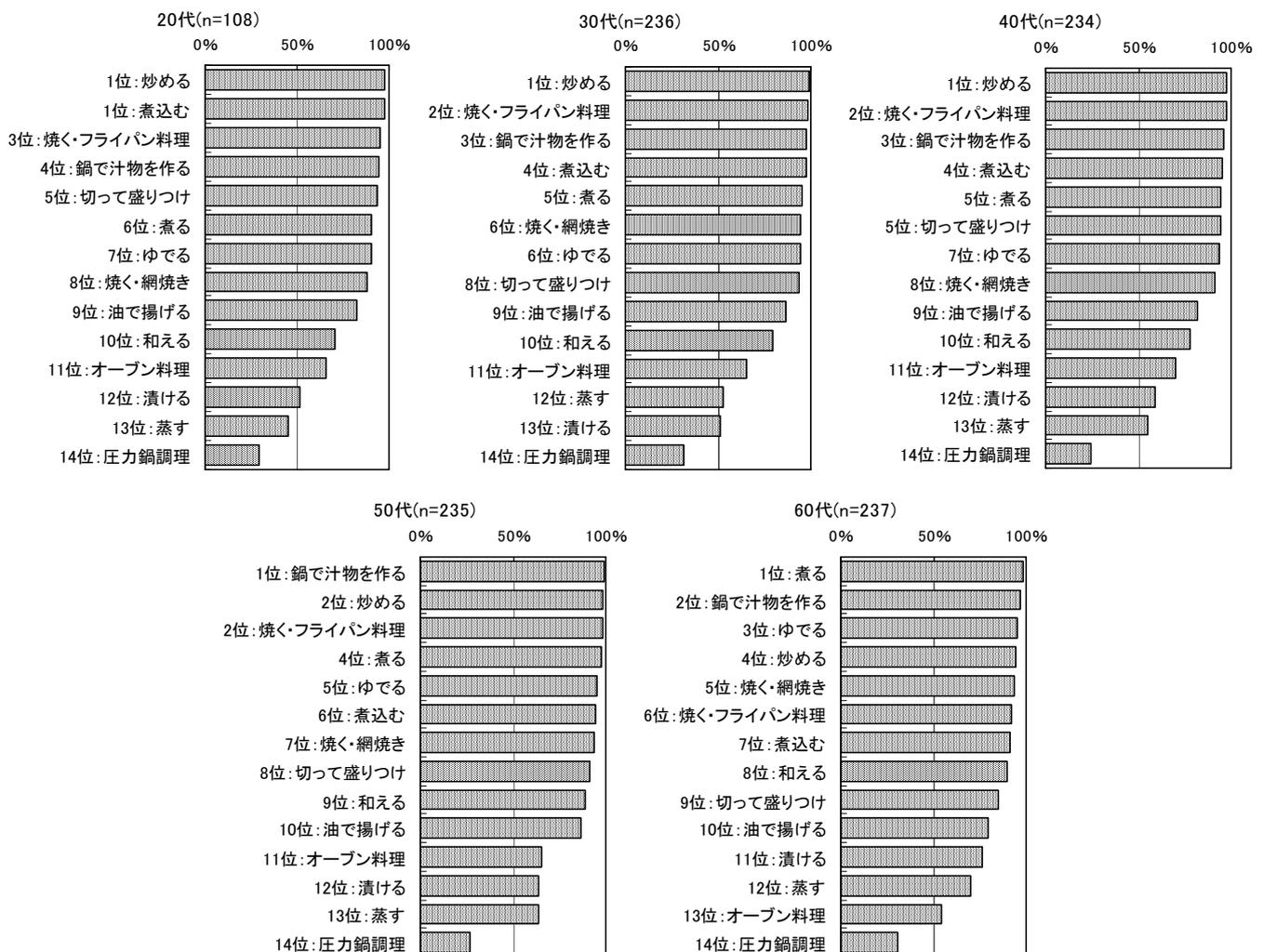
全体での1位は「炒める」97%、次いで「鍋で汁物を作る」「焼く・フライパン料理」「煮る」「煮込む」と続き、いずれも95%以上でした。定番調理の基本は、“炒める”“フライパン料理”と、“鍋”を使った“汁物・煮物・煮込み料理”といえそうです。

年代別にみると、20代では「煮込む」が「炒める」共に97%と同率1位となり、30代でも「煮込む」は98%に達し、シチュー・カレーなどの煮込み料理が身近なメニューとなっているようです。

30代・40代では「炒める」「フライパン料理」が上位2位を占め、忙しい中パッと手早く炒め物を作っている様子が伺えます。

50代・60代では「煮る」が「煮込む」を、鍋を使っての調理がフライパンを上回ります。汁物・煮物が多くなる様子が伺えます。

図表2 年代別よく行っている調理方法 (MA)



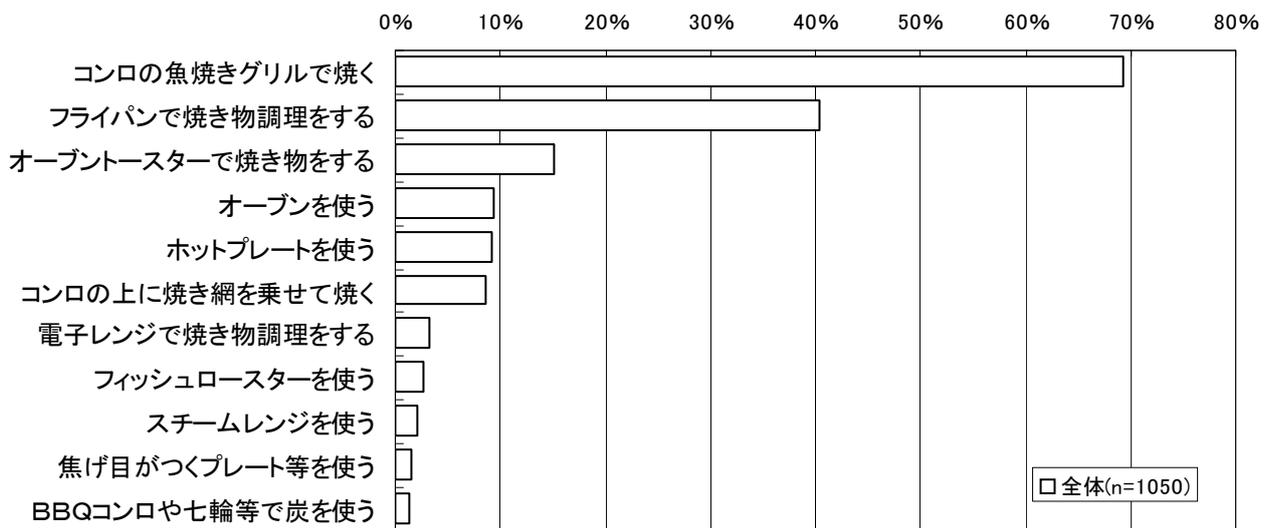
◆ 「フライパン」「焼き網」で焼き魚の20代主婦、 流行の最新グッズで蒸し物をするシニア。

調理方法の中では、設備や器具で調理の手間が変わる、焼き魚などの「焼く調理」と、流行の「蒸す調理」について、使う道具を聞きました。

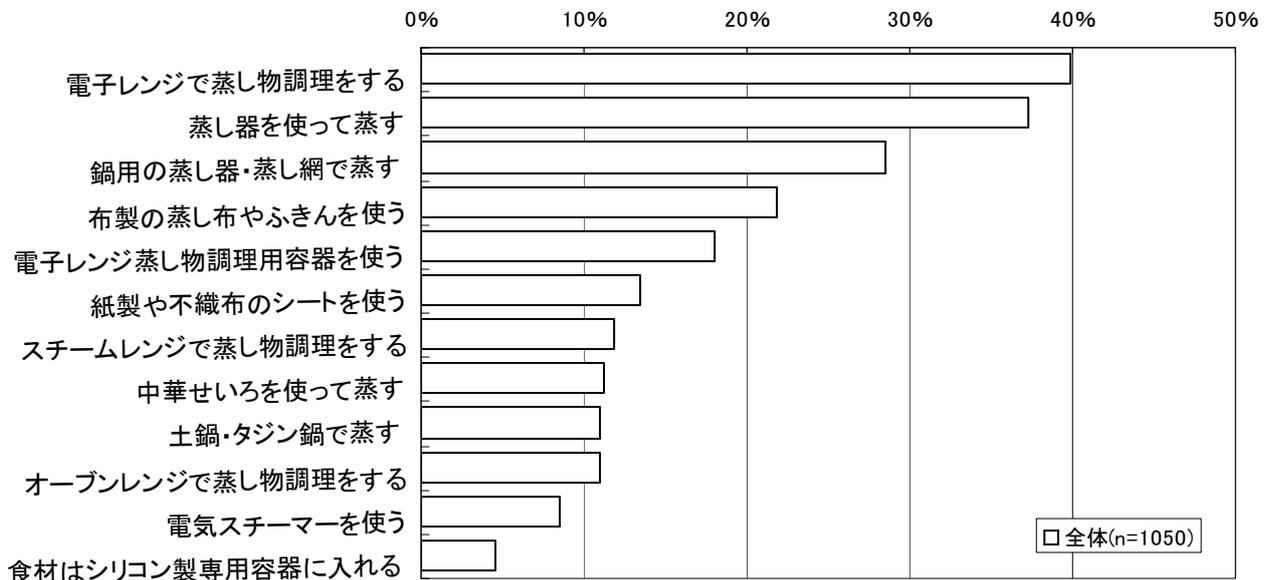
「焼く調理」は、「切り身魚」78%や「干物」58%など焼き魚メニューがほとんどですが、道具については「コンロの魚焼きグリル」を使う人が69%と多く、次いで「フライパン」が40%でした。20代では、「フライパン」派が半数近くに達し、「焼き網」「ホットプレート」が1割以上と多かったのが特徴的です。

「蒸す調理」は、「シュウマイ等中華点心」「根菜類」「茶碗蒸し」といったメニューが多いのですが、「電子レンジ」を使う人が40%、「蒸し器（金属製の鍋）」を使う人が37%でした。おしゃれな調理器具として人気の「電気スチーマー」「タジン鍋」「シリコン製の専用容器」などの利用はまだ小数派で、年代別にみると60代・50代のシニアのほうが多いという結果でした。

図表3 焼く調理の道具 (SA)



図表4 蒸す調理の道具 (SA)



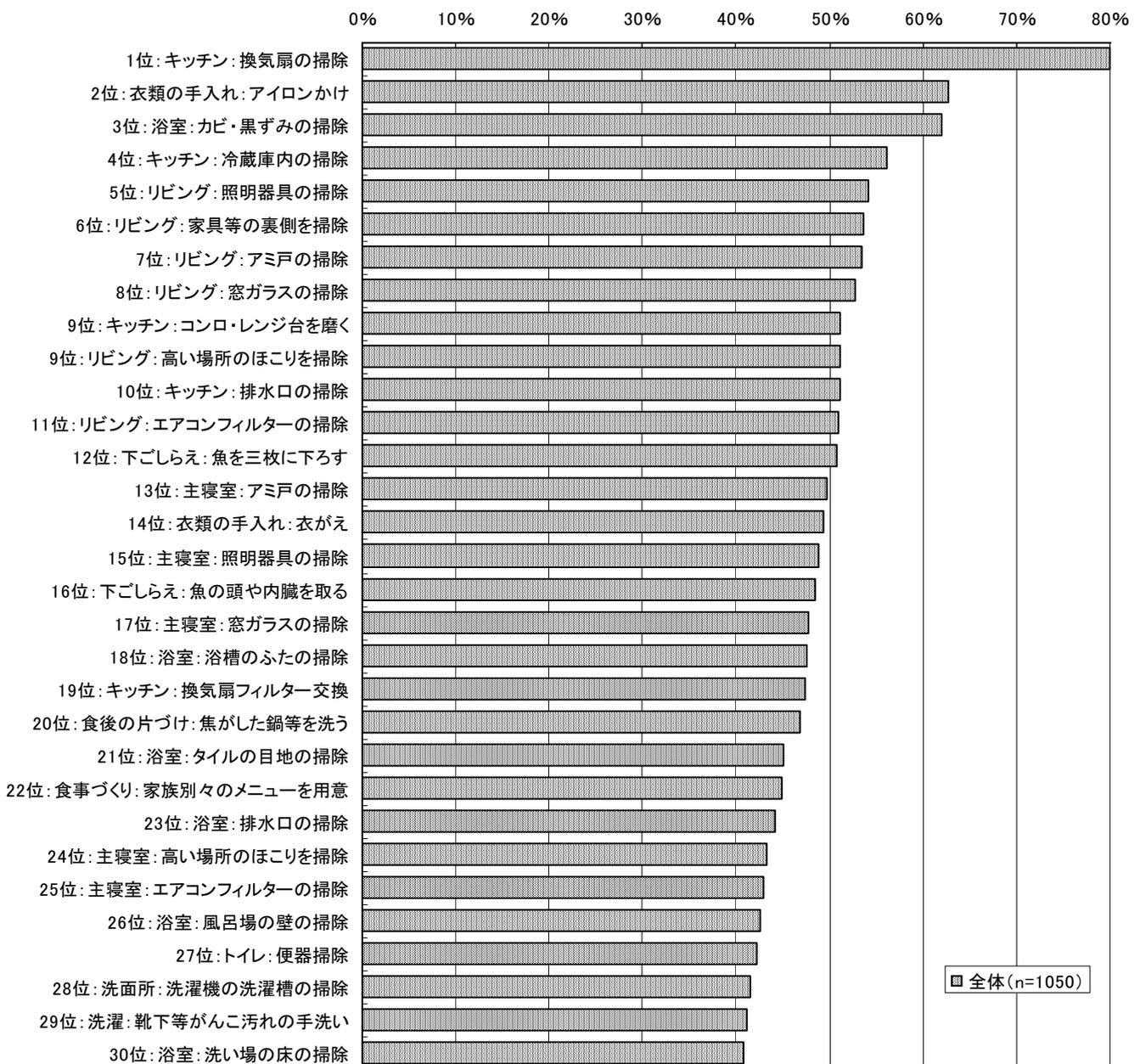
◆主婦の嫌いな家事ワースト3は、
「換気扇掃除」「アイロンかけ」「浴室のカビ退治」。

家の中で行われていると思われる家事を182項目を挙げ、実際に行っているかどうかに関わらず、面倒・嫌いなことを回答してもらいました。ワースト30までのランキングが図表5です。

1位はキッチンの「換気扇の掃除」が80%、次いで衣類の「アイロンかけ」63%、浴室の「カビ・黒ずみの掃除」62%と続き、これが主婦の嫌いな家事ワースト3となりました。

30位まではいずれも4割以上で、主婦が負担を感じてる家事が並びます。特にリビングや寝室の高いところ・家具の裏側・アミ戸掃除、バス・キッチンのガンコ汚れ対策に、負担が集中しています。一方、毎日行う家事である調理行動については、選択肢が65項目あるにもかかわらず、魚の下ごしらえや個食対応の3項目しかランクインせず、負担感は相対的に少ないようです。

図表5 面倒・嫌いな家事ランキング (MA)



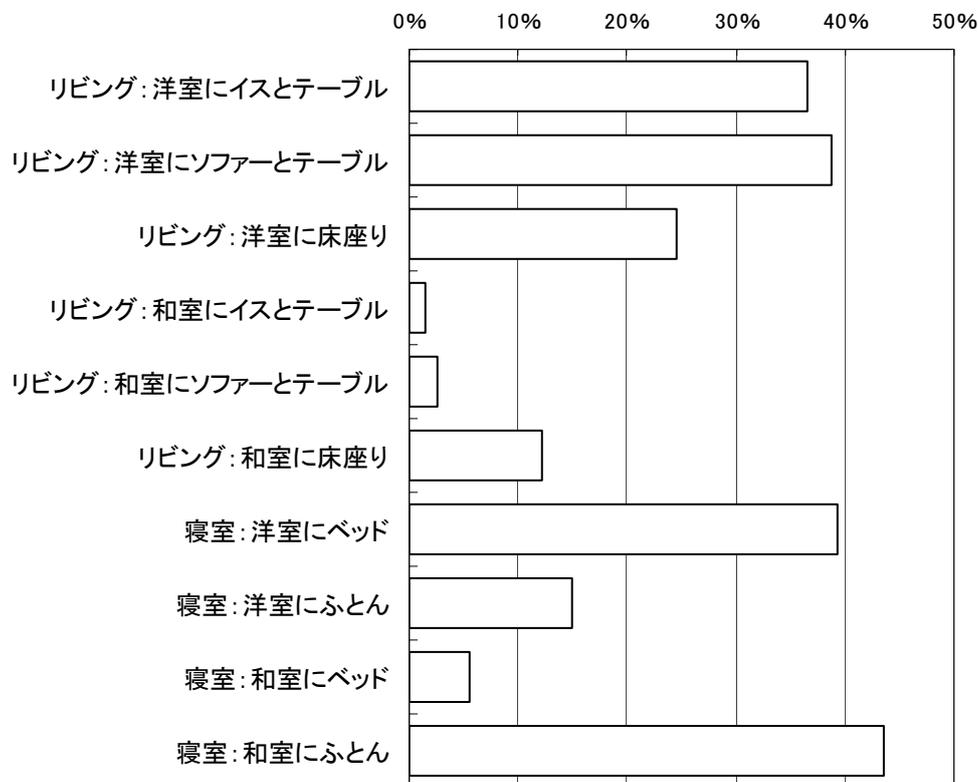
◆今どきのリビングは“洋室にイスかソファ”が主流、
 寝室の“ふとん”は敬遠・“ベッド”に満足感。

リビングや寝室のタイプについて聞きました。

リビングは「洋室にソファとテーブル」が39%と最も多く、次いで「洋室にイスとテーブル」37%、「洋室に床座り」25%と続き、この3タイプのいずれかに回答した人を集計すると84%でした。今どきの家庭のリビングは“洋室で腰掛ける生活”が主流で、「和室に床座り」という畳の居間で生活をしている家庭は1割程度でした。また、“洋室”の中でも「洋室にソファとテーブル」はあって便利・なくて欲しいと思っている満足度30%と高いのに対し、「洋室に床座り」は8%と満足度が低く、ソファへのニーズが高くなっています。

主寝室については、「和室にふとん」が44%、「洋室にベッド」が39%と拮抗しています。年代別にみると、「和室にふとん」は50代に多く、「洋室にベッド」は30代と60代に多いという結果でした。あって便利・なくて欲しいと思っている満足度は、「洋室にベッド」は41%と保有を上回るのに対し、「和室にふとん」は7%と大幅に下回っています。寝室に関しても、毎日のふとんの上げ下げが大変な“ふとん”の生活は敬遠される傾向にあります。50代・60代のシニアも体力の衰えからか何らかのタイミングで“ベッド”生活に切り替える人が多くなるのでしょうか。

図表6 リビング・主寝室のタイプ (MA)



「家事スタイルに関する調査2010」は、20～60代の主婦を対象に、主婦の家事全般に関するニーズをモノ・行動と価値観から検証するため、①調理行動と食品の購入・保存、②キッチン設備と後片づけ・掃除、③バス・洗面所・トイレ・洗濯等水まわりの家事、④その他家庭内のシゴト全般について、網羅的に調査調査を企画・実施いたしました。

①《調理行動編》：普段の調理行動と調理方法、購買行動、食品の保存

食事づくり、食品の購入・保存・調理に、何をを使い・何に困っているのか
ふだんの調理行動の実態とニーズ、購買行動、食品の保存場所、
炊飯、揚げ物・焼き物・煮物、調理家電・電子レンジ・オーブン、調理意識

②《キッチン編》：キッチン設備と器具・道具、後片づけと掃除

キッチンには、何があり・何を行っているのか、後片づけ・掃除は？
キッチンの設備・機能、調理家電・調理器具の所有・使用・収納、
後片づけ・掃除・大掃除、気になる汚れ、キッチン意識

③《水まわり編》：バス・洗面所・トイレの設備・掃除と洗濯行動

バス・洗面所・トイレには、何があり・何を行っているのか、洗濯行動は？
バス・洗面所・トイレの設備・機能・用品、気になる汚れ、掃除、洗濯行動、水まわり意識

④《家庭内のシゴト編》：家事全般のまとめ&リビング・寝室・玄関の設備・掃除

家の中にはどれだけ仕事があり、何に困り、今後のニーズは何か？
家庭内（リビング・寝室・玄関・・・）の設備、気になる汚れ、掃除、
「家庭内のシゴト」意識&「調理行動」「キッチン」「水まわり」の総括・まとめ

また、2006年に「これからの家事スタイルに関する調査」を実施しており、本調査はその継続調査です。

本調査は、主婦の“家の仕事”ニーズを、モノ・行動と価値観から検証した総合的に調査したもので、“イエナカ”マーケティングに必要な基礎調査データです。本調査は、今回はその中から、「料理やキッチンに対する意識」「よく行っている調理方法」「焼く調理・蒸す調理の道具」「面倒・嫌いな家事」「リビング・主寝室のタイプ」に焦点を当てて結果の速報を報告しております。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq35.html>)

【調査入手のご案内】

弊社自主企画により、複数企業にご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

・調査のアウトプット《調理行動編》《キッチン編》《水まわり編》《家庭内のシゴト編》各編毎に

(1)調査報告書：A4判・46～58ページ・2010年1月～2月発行

(2)集計結果表：A4判・529～599ページ・2010年12月発行

(3)磁気データ(CD-ROM)：クロス集計、ローデータ、他

・調査参加費用：定価 各編320,000円(税込336,000円)

MDBメンバー価格 各編280,000円(税込294,000円)

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階

TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。